

関連学会にも不都合な点をあげてもらおうための  
討論資料として要望書と添付資料とを送付した  
(天文学会は理事会での討議をしていないとのこと  
で、秋季年会の総会では資料としてのみ配布され  
た)。

サマータイム制度法案はいつでも国会提出でき  
る状態にある。国民生活に密接に関係する制度が  
いつの間にか導入決定、ということにならないよ  
うにすべきであろう。

研究会の1995年年会も近畿支部役員・西はり  
ま天文台職員(台長黒田武彦氏)のお蔭をもち、  
無事、成功をおさめることができた。1996年の年

会は8月1日～4日に妙高少年自然の家において、  
中部支部長沢武文氏・上越天文教育研究会会長江  
口元一氏を中心とする方々のお世話により開かれる。

なお、1995年年会の集録(送料含み2000円)、  
1994年年会集録(送料含み1500円)、1993年年  
会集録(送料含み1000円)、1992年春の共催フ  
ォーラムの内容をまとめた冊子「天文教具」(送料  
含み500円)を希望の方は代金相当の切手を下記  
に送付ください。(研究会会員は、集録は無料)

天文教育普及研究会会長 水野孝雄

〒184東京都小金井市貫井北町4-1-1

東京学芸大学地学教室内

## 寄贈図書リスト

「宇宙開発秘話」, 読み物, 齋藤成文著, 三田出版会,  
A5判, 347p, 2400円,

## 月報だより

### 人事公募

標準書式: なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下  
さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員(ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・  
所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担  
当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7.  
提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2)  
問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他(待遇など)

### 京都大学理学研究科宇宙物理学教室教官

1. 助教授1名 および 助手1名
2. (1) 京都大学理学研究科宇宙物理学教室
3. 天体物理学(理論, 観測, 光学観測機器開発)
5. (1) 決定後なるべく早い時期
7. 履歴書, 研究経歴および論文リスト, 主要論文別刷,  
研究計画書
8. 公募締切: 平成7年12月22日(金) 必着
9. (1) 〒606-01 京都市左京区北白川追分町  
京都大学理学研究科宇宙物理学教室  
主任 加藤正二 Tel.075(753)3901
10. 提出書類に、「助教授に応募」、「助手に応募」、「助

教授または助手に応募」の別を明記すること。

### 国立天文台教官公募

1. 助手1名
2. (1) 岡山天体物理観測所  
(2) 岡山県浅口郡鴨方町(将来ハワイ派遣の可能性も  
ある)
3. 光学赤外線天文学および関連分野  
岡山天体物理観測所は、共同利用施設として188 cm  
望遠鏡等の運用を行うとともに、大型光学赤外線望遠  
鏡計画推進部、光学赤外線天文学研究系と協力して、  
ハワイに建設中の「すばる」望遠鏡等につながる開発  
研究に力を注いでいます。観測装置の開発等を積極的に  
進め、観測所勤務の利点を生かして、観測の研究を  
意欲を持って行おうとする若手研究者を求めます。
5. (1) 決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程修了、またはそれと同等以上の方
7. (1) 略歴書, (2) 研究歴(これまでの研究内容の概略  
を含む), (3) 研究論文リスト, および主要論文別刷,  
(4) 研究計画書, (5) 本人について意見を述べられる人  
2名の氏名と連絡先, (6) 他薦の場合には推薦書の他に、  
前期事項(1)~(5)の概略のわかる書類。
8. 締切: 1996年1月10日 必着。
9. (1) 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1  
国立天文台長 小平桂一

(2) 〒 719-02 岡山県浅口郡鴨方町  
岡山天体物理観測所長 前原英夫  
TEL : 08654-4-2155

10. 封筒の表に「岡山天体物理観測所助手人事応募書類  
在中」と朱記し、簡易書留でお送り下さい。選考は、  
国立天文台運営協議委員会において行います。なお、外  
国籍の方の場合、法令に基づいて任期を定める場合が  
あります。

### 国立天文台平成8年度外国人研究員(COE) 候補者の推薦について

1. 平成8年度外国人研究員(COE)について、国内から  
の推薦を募集します。
2. 平成8年4月以降に招へいしようとする者を対象と  
します。(招へい期間については、3か月以上1年以  
内となります。)
3. 推薦される候補者がある場合は、国立天文台所属の  
受入れ責任者にご相談の上、所定の申請書等に記入し、  
平成7年12月28日(木)まで国立天文台管理部庶務課  
共同利用係(☎0422-34-3660)宛ご提出ください。  
(決定の時期：平成8年2月末～3月上旬頃)  
なお、申請等のお問い合わせは、同係まで。

### 東京都立大学理学部物理学教室教員

1. 助手1名
2. (1) 宇宙物理実験研究室(助教授 大橋隆哉, 助手 山崎  
典子が在職)
3. X線ガンマ線天文学
4. 科学衛星を用いたX線ガンマ線天文学の観測的研究、  
および新しい観測技術の実験開発
5. (1) 決定後できるだけ早い時期
6. 博士の学位を有する人またはそれと同等の力を有す  
る人
7. ○履歴書○業績リスト○現在までの研究概要(2000  
字以内)○研究計画(2000字以内)○主要論文別刷  
(5編以内)○推薦書または意見書1通(健康に関す  
る所見を含む)
8. 締切：1996年1月10日(木)必着
9. (1) 〒192-03 東京都八王子市南大沢1-1  
東京都立大学理学部物理学教室  
主任 岡部 豊  
電話 0426-77-1111 内線 3367  
(2) 同教室 大橋隆哉  
電話 0426-77-1111 内線 3245  
E-mail ohashi@phys.metro-u.ac.jp
10. 注意事項：「宇宙物理実験助手応募書類」と朱書し、  
書留で郵送のこと

11. 待遇：東京都の給与体系による

### 研究会・集案案内

#### すばる望遠鏡高分散分光(HDS)研究会

表記研究会を以下の要領で開催致します。話題と関心  
を御持ちの方々に数多く参加して頂けますよう、よろし  
くお願い致します。

日時：1995年12月14日(木)13:00～18:00  
15日(金)9:00～15:00

場所：国立天文台(三鷹)コスモス会館

内容：すばる望遠鏡高分散分光器(HDS)で進める、QSO  
から近傍の恒星に至るまでの、さまざまな天体を対象  
とした天文学。特に、HDSを使って活発に天文学を推  
し進めていけるサイエンスグループの形成促進を目指  
します。

連絡先：〒184 東京都小金井市貫井北町4-1-1

東京学芸大学第三部地学科 泉浦秀行

Tel : 0423-25-2111 ext.2680

Fax : 0423-24-9832

e-mail : izumiura@yamabuki.u-gakugei.ac.jp

### 研究助成

#### 天文学振興財団1996年度研究助成公募

当財団では、国立天文台の事業支援を通じて天文学の  
振興を図っております。当財団の1995年度の研究助成  
は「孤立した赤外線点源の起源を探る：星はどこで生ま  
れているか？」(土橋一仁氏：大阪府立大学)に対して  
100万円を交付しました。

1996年度の研究助成希望者を下記の要領で公募します。

なお、財団を支えて下さる賛助会員(一口20万円/年)  
を広く民間から募っていますので、ご協力をお願いします。  
1995年11月1日

天文学振興財団 理事長 古在由秀

#### 1. 公募種目

##### (1) 研究助成

- a. 対象：天文学に関する優れた研究活動を行おう  
とする個人又は団体の代表者、原則とし  
て35歳以下
- b. 助成：総額200万円とし、助成件数は1～2  
件程度

##### (2) 国際交流に対する助成

- a. 対象：天文学に関する海外での国際交流事業

- (1カ月以内)に平成8年4月以降参加する研究者
- b. 助成：派遣に要する往復航空賃及び滞在費の一部（1件当たり17万円程度）とし、助成件数は数件程度
- (3) 国際研究集会参加に対する助成
- a. 対象：天文学に関する海外で平成8年4月以降に開催される国際研究集会（10日以内）に参加する研究者
- b. 助成：派遣に要する往復航空賃及び滞在費の一部（1件当たり15万円程度）とし、助成件数は数件程度
2. 選考結果：選考委員会で審査の上、採択の可否については、平成8年3月頃に決定予定
3. 報告：研究助成は、年度末、それ以外の助成は、帰国後1カ月以内に報告書を提出していただきます。
4. 申請：申請書は事務局あて封書（返信用封筒・長型3号を同封のこと）により請求して下さい。申請書の提出締切は平成8年1月15日必着
5. 問い合わせ先：天文学振興財団事務局  
〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1  
国立天文台内  
Tel：0422-34-3659  
Fax：0422-34-3690

## アサヒ・フェローシップについて

標記の案内が天文学会にきております。概要は次の通りです。

アサヒ・フェローシップ（朝日国際奨励金）は1988年、朝日新聞東京本社創刊100周年を記念して創設され、その後、1992年5月に設立された財団法人朝日新聞文化財団に引き継がれた、外国人を対象とする奨励金制度です。日本に関心を持ち、さらに研究を進めたいと願う有望な学者、ジャーナリスト、芸術家らを日本に1年間招き、活動、交流を通じて日本理解を深めてもらおうというものです。

この制度の積み重ねにより人と人との交流が深まり、国際協調、相互理解が促進されることを心から願います。

## 内容

- 2～4人を採用し、1年間（原則として毎年9月から）日本に招聘します。
- 奨励金の総枠は1500万円で、研究内容に応じて選考委員会が適切な額を決定します。
- 来・離日時の往復航空券を支給します（エコノミークラス、本人のみ）。
- 滞在中の海外旅行傷害保険料は財団法人朝日新聞文化財団が

負担します。

○来日中は、支給金で研究費、生活費をまかない、計画に基づいて研究・交流活動を行います。

## 応募資格

○外国国籍の個人

○大卒、またはそれにふさわしい経験を持つ人。学術研究分野は、Ph. D 取得者もしくはそれに相当する学識を持つ人を希望します。

○日本に関する研究、学習活動などを行おうとし、日本に滞在の必要がある人。自国でも同程度の活動が可能な人は受け付けません。

○日本に現在長期滞在中の人、および今後長期にわたり居住する見込みのある人は受け付けません。留学・研修などですでに来日の決定している人も受け付けません。

○日常生活に事欠かない程度の日本語を話せることが望まれます。

○特に年齢制限はありませんが、滞日活動終了後、自国においてその経験を生かし発展的活動ができる人、将来性を持つ人を希望します。

## 応募方法

○募集は毎年1回、1996年分は1995年12月1日から1996年2月29日まで行います。

○受入機関、研究協力者については、申請者本人が直接申し入れ、許可を得て下さい。

○希望者は、所定の申請用紙で応募すること。申請用紙は本フェローシップ事務局に郵便で請求するか、募集期間中は朝日新聞社の海外総・支局にも備えてあります。

○申請には必ず推薦書（所定の用紙を使用）を添えること。応募者の日本語能力、研究テーマに関する能力、テーマについての評価ができる人物（指導教官、上司など）に作成を依頼して下さい。

○申請書、依頼書など応募書類は一切返却しません。

## 選考と通知

○選考は朝日新聞社内の審査を経て、財団法人朝日新聞文化財団の選考委員会が行います。

○選考結果は6月末までに朝日新聞紙上で発表するほか、応募者本人にも郵便で通知します。

## 山田科学振興財団研究援助候補推薦

山田科学振興財団より本会あてに、下記内容の1996年度研究援助候補の推薦依頼がありましたのでお知らせ致します。

記（推薦要領抜粋）

1. 援助の対象：自然科学の基礎的研究（実用指向研究

は対象外)。

2. 援助の金額：200～500万円の援助を10件
3. 推薦件数：1推薦者ごとに2件内。

申請用紙をご入用の方は、学会事務室までお申し出下さい。申請書は、1996年2月29日までに下記あてに提出して下さい。

宛先 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内  
日本天文学会

## 研究情報案内

### 電子掲示板 スペースボードのご案内

(財)横浜市青少年科学普及協会では、天文・地学分野専門の無料公開BBS(045-832-1177; 300~9600bps)を、WIDEプロジェクトの協力を得て運用しています。

このBBS(スペースボード)は、これまで、遠方からのアクセス手段として、Tri-P(CXSPACE 2400bps)しかなかく回線数や速度、Tri-Pに加入していないと使えない、といった不便がありました。

1995年7月13日から、試験的にインターネットからのアクセスも可能になりました。(試験的ですのでなんらかの理由で停止/中止もありえます)インターネットならどこからでもアクセスできるのではなく、大手パソコン通信サービス(ASAHIネット、ニフティサーブ、PC-VAN、アスキーネット、日経MIX、PEOPLEほか)および\*.ac.jpドメインからに限定しています。また、インターネット経由でアクセスできる時刻も21時45分~翌朝08時30分に限定させていただきます。

例えば、ニフティからですと、GO INTERNETでインターネット接続用メニューが用意されています。

スペースボードへの通常のアクセスはtelnetコマンドでspaceb.ysc.go.jpを指定してください。(つながりましたら、通信ソフトの漢字コードを新JISに切り替えてください)

ファイルのダウンロードはtelnetではできませんので、telnetを終了し、ファイル転送に使用するftpコマンドでspaceb.ysc.go.jpを指定してください。ftp接続では、ftpもしくはanonymousという名前ではいり、パスワードにはあなたのインターネット・アドレスをいれてください。(例:ABC00123@niftyserve.or.jp)画像などのバイナリーファイルの転送には、あらかじめ

binary

と指定する必要がありますので、念のため

get ファイル名

する前に

binary <リターン>

としてください。接続を切らないかぎり、binaryの指定

はいきていますので一度おこなえばけっこうです。

ワールド・ワイド・ウェッブ(WWW)をつかってスペースボードにある画像などに直接アクセスするには、URLにftp://spaceb.ysc.go.jp/pub/と指定してください。

(財)横浜市青少年科学普及協会 山田 陽志郎  
e-mail yamada@ysc.go.jp

### 宇宙科学研究所 WWWホームページのご案内

もうご存知の方もおられるかも知れませんが、1995年9月よりインターネットによる宇宙科学研究所のWWWサービスを開始しております。

宇宙研ホームページを見るためには、一般のWWWページと同じように、Mosaic、Netscape等のソフト上でURLを <http://www.isas.ac.jp/index-j.html> (日本語版)  
<http://www.isas.ac.jp/index-e.html> (英語版)と指定して下さい。

また、宇宙研ホームページに関して、ご意見ご要望等がございましたら、webmaster@www.isas.ac.jpまでご連絡下さい。

宇宙科学研究所

宇宙科学企画情報解析(PLAIN)センター

## 会務案内

### 日本天文学会評議員候補者選挙に関する公示

評議員選挙管理委員会は、1996年の総会に推薦される改選評議員(任期1996年~2000年)候補者の選挙について、定款第19条及び評議員選挙施行細則(以下細則という)に基づき、下記の通り公示する。

#### 記

1. 選挙権及び被選挙権を有するものは、この公示の時点における特別会員である。ただし非改選評議員(任期1994年~1998年)は被選挙権を有しない(細則3条による)。
2. 上記有権者には、有権者名簿及び投票用紙を別に発送する(細則4条による)。
3. 投票は、10名以内の無記名連記とする(細則5条による)。
4. 投票期間は、1995年12月4日(月)から1996年1月10日(水)(必着)までとする。
5. 選出された候補者の名簿は、1996年2月20日発行の天文月報(1996年3月号)にこれを発表する(細則7条による)。
6. 投票の細則に関しては、上記2の投票用紙の発送に

際して、これを通知する。

以上

1995年11月20日

### 日本天文学会 1995 年度秋季年会記事

1995 年度秋季年会は 10 月 5 日(木)～7 日(土)の 3 日間、新潟大学教育学部の講義室の 5 会場を使って開催した。口頭(10 分)、口頭(3 分)+ポスター、ポスターによる発表講演数はそれぞれ 221, 123, 55 である。なおポスターセッションペーパーは 2 件であった。各会場の座長には次の方々をお願いした。今回の参加者は 520 名と盛況で、藤本・富阪氏を中心とする新潟大の方々のご努力で大変順調に行われたことをまず申し述べます。

会場	A	B	C	D	E
5 日					
午前	松岡 勝	柴田一成	中川貴雄	三好 真	磯部瑋三
午後 1	松元亮治	坂井純一	半田利弘	西川 淳	尾崎洋二
午後 2	牧島一夫	柴崎清登	木下 宙	坂尾太郎	柴橋博資
6 日					
午前	土居 守	一本 潔	北村良実	芝井 広	柴崎徳明
午後	大橋隆哉	桜井 隆	水野 亮	松尾 宏	蜂巢 泉
		横山順一			
7 日					
午前	田代 信	吉井 讓	観山正見	牧島一夫	村上敏夫
午後	中井直正	土佐 誠	羽部朝男	村上 浩	伊藤直紀

〈記者会見〉秋季年会の前日 14 時から新潟大学松風会館で記者会見を行い、次の点について解説した。

話 題：天文学会秋季年会(10 月 5～7 日)トピックス

- 1) 太陽半径 2.6 年(950 日)変動成分  
吉澤正則(国立天文台)  
【関連講演：M42a】
- 2) DG Tau 星周囲のダスト円盤の高分解能観測  
北村良実(宇宙研), ほか  
【関連講演：P21a, P32c】
- 3) 衛星搭載赤外線望遠鏡 IRTS  
村上浩, 芝井広(宇宙研), ほか  
【関連講演：W13a-W17a, W19c-W21c, Q16a-Q17a, Q24b-Q26b】

さらに 10 月 8 日(日)に予定されている公開講演会については松田卓也・柴田一成両氏にも加わっていただき説明した。

〈臨時総会〉2 日目午後 3 時 30 分から行われた。昨年度決算の報告・会計検査の報告のあと、定款の改訂に関す

る説明を理事長の杉本大一郎氏が行い、次回総会で改訂案を議決する旨提案された。総会出席者は 130 名であった。

〈天文教育フォーラム〉3 日目の午後 1 時から、天文教育普及研究会との共催による天文教育フォーラム、『エセ科学本、エセ科学テレビ番組と自然科学(天文)教育』が開催された。松田卓也氏の報告のあと、多くの現状報告、意見交換が行われた。

〈懇談会〉2 日目の午後 6 時から生協第一食堂を利用して行われ、約 230 名の参加者があった。(株)五島プラネタリウム、(株)エイ・イー・エスからのご芳志もあり大変盛り上がったが、これも新潟大関係者のご努力の賜と敬意を表する。

〈公開講演会〉10 月 8 日(日)に同じく新潟大医学部有壬記念館で行った。講師および演題は

「相対性理論は正しい—疑似科学との闘い—」

講演者：神戸大学教授 松田卓也

「太陽面爆発(フレア)の謎に挑む

—「ようこう」はフレアをどこまで解明したか—

講演者：国立天文台助教授 柴田一成

であった。松田卓也氏の講演では大きな社会問題ともなっている一部マスコミによる疑似科学の取り上げ方の問題点について、柴田一成氏の講演では太陽物理学の最新の成果についての興味深い結果が話された。

### 日本天文学会 1996 年春季年会 の開催と講演の申し込みについて

春季年会は 1996 年 3 月 27 日(木)から 29 日(金)までの 3 日間、神戸大学にて開催の予定です。プログラムは 2 月 20 日発行の天文月報 3 月号に掲載されます。

#### 【講演の申し込み】

講演の申し込みは「〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 日本天文学会年会係」あてに封筒の表に「講演申込書在中」と朱書の上、1 月 10 日(水)までに到着するよう規定の申込用紙を用いてお送りください。

先回より e-mail での予稿を受け付けています。e-mail での予稿の書き方、送り方、およびフォーマットは tennet を通して連絡します。tennet から直接情報を入手できない方は tennet 加入者にお聞きください。直接学会への問い合わせにはお答えできません。e-mail での予稿は日本天文学会会員の方からのみ受け付けます。郵送と e-mail との二重の申し込みは固くお断りします。

さらに今回は郵送分といっしょにしてプログラムを WWW 上に掲載します。e-mail 投稿による予稿本体も、

プログラムと同様に WWW 上に掲載する予定ですので、支障のある方は前もってお申し出下さい。

講演は「口頭発表(講演 10 分)」, 「口頭発表(3 分)+ポスター発表」, 及び「ポスター発表」にて行いますので、希望の発表形態を選択して下さい。口頭発表(3 分)の質疑応答は数講演を一括して時間を設けて行います。また、筆頭講演者の複数講演が可能です。ただし、2 目以降の講演はポスター発表とします。

Post-deadline papers も受け付けます。これは、単に講演の締切日に間に合わなかったものではなく、IAU Circular に掲載されるような緊急性・トピックス性に富んだものに限定し、3 月 22 日(金)まで受け付けます。講演方法はポスター発表となります。

講演分野の分類は以下の通りです。

位置天文学, 天体力学, 太陽系, 太陽, 恒星, 星形成, 星間現象, 銀河, 銀河活動核, 銀河団, 宇宙論, 地上観測機器, 飛翔体観測機器, 情報処理, 天文教育, その他

なお申し込みの分野の分類に続けて、プログラム編成のため、内容を最もよく表すキーワードをご記入下さい(例: 恒星(内部振動))。

講演申込者で年会出席旅費の補助を希望される会員は直接 1 月 10 日(水)までに必着するよう「国立天文台内日本天文学会」に申し込んで下さい。ただし申込みのできる人は、1995 年度会費納入済みの人で、原則として、連名の場合でも筆頭講演者であり、正式の給与を受けていない特別会員学生会費納入者に限ります。尚、旅費は年会々場にてお渡し致しますので印鑑をご持参下さい。又、申込みの確認を希望される方は住所、氏名を書いた返信用のハガキを同封して下さい。

講演申込み・発表に際しては特に次の事項を厳守して下さい。

1. 講演内容は完成度の高い研究とする。
2. 連名の場合、発表者を講演著者の筆頭におく。
3. 複数講演申し込みの場合は 2 講演目以降はポスター発表に限る。
4. 口頭発表においては、スライドまたはオーバーヘッドプロジェクターを使用すること。

5. ビデオプロジェクターの使用(口頭発表のみ可能)を希望される方は年会申込み用紙に印をつけて下さい。

6. 郵送による申し込みの際、原稿をセロテープ、メンディングテープなどで貼りつけることはせずに、必ず糊をお使い下さい。

7. 予稿原稿の受け取り確認をご希望の方は、各自であて名(自分の名前・住所)を書いた返信用のハガキを同封して下さい。

年会は、主として会員の研究発表や情報交換等を通じて天文学の発展に寄与するものです。会員外の方で講演を希望される方には、申込みの際に入会をお勧めしております。

#### 【参加費等の支払い方法】

講演の申し込みには講演登録料が必要です。ただし、特別会員の方は 1 講演につき、また、今回が初めての講演申し込みである方も、通常会員、会員外を問わず、1 講演につき講演登録料が免除となります。

会員種別	特別会員	特別(学生)	通常会員	会員外
年会参加費	3,500円	2,000円	3,500円	4,000円
年会講演登録料	3,000円	3,000円	3,000円	5,000円
年会予稿集	2,000円	2,000円	2,000円	2,000円

1) 年会参加費及び年会講演登録料は年会会場でお支払いください。

2) 年会講演登録料は 1 講演あたりの金額です。

3) 予稿集代は会員会費には含まれていません。2 月末日までにお支払いいただいた方には郵送します。本誌挟み込みの申し込み用紙(郵便振替用紙)をご利用下さい。年会会場でもお求めいただけます。

#### 【お問い合わせ】

年会中に、集会のため会議室の利用を希望される方は前もって、神戸大学 中川義次までご連絡下さい。

電子メール: yoshi@whynot.phys.kobe-u.ac.jp,

電話番号: 078-803-0563

ファックス: 078-803-0490

(年会実行委員会 田中培生)

編集委員	関口和寛 (編集長), 末松芳法, 田代 信, 辻本拓司, 中川貴雄, 林 左絵子, 平野尚美, 宮坂正大
平成 7 年 11 月 20 日	発行人 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所 〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町 565-12 啓文堂 松本印刷
定価 700 円 (本体 680 円)	発行所 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
	電話 (0422) 31-1359 (FAX 自動切替) 振替口座 00160-1-13595